

混沌とした中から

2006年の年頭に当たって

「混沌とした中から」になって2回目の新年です。毎年今年はどうなるのかを考えて書いていますが、見直さないで当たっているのやいないのやら。

ということで2006年です。去年はセキュリティが注目される年だとしました。確かに個人情報保護法の施行を契機に個人情報を始めとした情報セキュリティが今まで以上に注目された年でした。しかし、それでも情報漏洩事件がなくなったわけではありません。それよりはこれまで表に出てこなかったものが積極的に公表されてきたこともあげられます。個人情報保護法に対する過剰対処も見かけられています。病院の待合室で名前を呼ぶのをやめたり、事故事件の際の関係者の名前の公表をやらなくしようという動きもあったようです。今年はどうのような年になるかですが、デジタル家電がいろいろな意味で注目されるのではないのでしょうか。これまでデジタル家電はどうなるかということがいろいろなところで言われてきましたが、気づいてみるとすでに入ってきているような状態です。音楽のネット配信が一般的になり、デジタルオーディオプレーヤーはテープの時代からMDに変わったような顔をするかしないうちにメモリ、HDD内蔵となってしまっています。CDを買ってきてもすぐにデータをすぐにパソコンに入れ、必要なものだけを持ち歩く状態です。パソコンやオーディオデータを蓄えるものを中心として回転しています。ビデオも同様なところがあり、ビデオレコーダはすでにDVDレコーダやHDDレコーダが中心で、ビデオテープの対応はこれまでのテープ資産の利用のためになっています。このビデオレコーダがネットワーク機能を持ち、データを蓄えるサーバの役割となろうとしています。そのためもあり、これまで家電メーカーでなかったI/Oデータやバッファローなどのパソコン周辺機器メーカーがサーバ機能を持つビデオレコーダとして製品を出しています。また、パソコンも変化を遂げ、コンシューマ向けのもはそのほとんどがDVDを内蔵するとともにテレビの表示、録画機能を持ち、テレビも診ることのできるパソコンなのか、パソコン機能を持つテレビなのかその製品コンセプトはこれまでとは異なったものになってきています。そこで気がかりなことがひとつ。パソコンのウィルスはよく知られていますが、現在携帯電話のOSに対応したものが増えてきています。そうすると次のターゲットはデジタル家電になるかもしれません。デジタル家電もインターネットなどに接続されることが普通となる可能性があり、また、そのインターネットが常時接続環境が普通ですから、ネットワーク経由でのウィルスの侵入は十分に考えられます。が普通ですから、ネットワーク経由でのウィルスの侵入は十分に考えられます。デジタル家電でメールをやるわけではないから大丈夫という考えもあるかもしれませんが、デジタル衛星チューナにはメール機能はありますし、ネットワークからの侵入は十分に考えられます。それよりも危ないのはパソコンのようにウィルス対策が取れないところにあります。ウィルス対策ソフトを入れたり、パターンファイルを日常アップデートするわけではないのですから。ひとたびデジタル家電を踏み台としたウィルスが登場すると一気に感染が拡大してしまいます。

セキュリティに注目が集まった2005年、デジタル家電の普及が想定できるようになってきた2006年。いろいろな面で便利になるということは、その裏でリスクも拡大するということを十分に認識しなければならないのではないのでしょうか。住民基本台帳のネットワーク化でも、ユビキタスでも書きましたが、目を向けたくないであろう便利さの裏のリスクを再認識しなければならなくなる年になりそうです。

(今週の情報誌から)

○日経バイト 1月号(最終号)

特集 コンピューティングの21年

→1984年10月号で創刊となった日経バイトが最終号となった。PC 9801がパソコン市場を席卷していた頃の創刊で、パソコン下位の動向を振り返る特集。その特集もハードの記事があった頃から、OSの動向、互換機の動向などの記事の流れ。パソコン、OS、CPU、外部記憶装置、ネットワーク、開発言語/環境、アプリケーションなどのそれぞれの21年を振り返っている。

○日経システム構築 1月号

特集 どうする?現場の「予算」「人材」不足

→システム開発の現場は慢性的な人材不足と予算不足が続いている。システム開発者のなり手が少ないこともあるが、全てが大企業志向であるため、中小のIT企業には募集してもなり手がいない。合わせて予算不足もある。ちょっとした変更でも多額の費用がかかったりしてはなんとか現状で済ますことになったりすることもあるが、人材不足で無駄な費用がかかってしまうこともある。何とかその対策は。

○NETWORKWORLD 2月号

特集 セキュリティの常識・非常識

→セキュリティに注目が集まりほとんどの企業ではセキュリティ対策に余念がないが、誤った知識を土台とした対策では何にもならない。相手を知り、正しい知識、解釈を確認したうえでセキュリティ対策を実施しなければならない。セキュリティ脅威はとどまっていない。進化に対応した柔軟な対策が必要になる。